

冬のおくり物

三ツ井彩乃

秋の間に紅葉した葉もすっかり落ちて、つめたい木枯らしがふく季節となりました。

夏の間をどうぶつ森ですごした動物たちは、少しずつせまる寒い冬にそなえて、あたたかい町の方へ引っこしていきました。どろんこぬまに住んでいたカッパさんも、「三日前にふもと
の町に引っこしてしまって、リス三兄弟やクマさんの玄関には「只今冬眠中」という看板
がかかっています。

「はあ〜」

どうぶつ森に住むふたこのウサギ、トトとムムも、にぎやかだった森がすっかりさびしくな
ってしまい、ため息ばかりついています。

そんなある日のこと、朝、目が覚めたトトは鼻をビクビクツと動かしました。ムムは耳を立
ててじつと耳をすましています。そして同時に目をパチツとあげると、口をそろえて、「もしか
してー」

とさげびました。ニひきがベットから飛びおりて窓を開けると、そこには真っ白な雪のじゅう
たんが広がっていました。

「やっぱりー」

「わあ、きれい。まぶしいー」

ニひきはにぎやかに歓声をあげると、

「おお寒い」

「ハックション！」

と、そつと窓を閉めました。

初雪で、すっかり元気をとり戻したトトとムムは、家の中を走りまわって大さわぎです。「セーターを出さなきゃ」

「手ぶくろとマフラーも必要だよ」

やっと見つけ出した去年のセーターを着たトトとムムは、おたがいに相手を指さして大笑い
です。

「あはははは。ムムったらつんつるてんだ」

「うふふ。トトだって短くなってるよ」

冬の白い毛に生えかわったトトとムムの手はセーターからだいぶはみ出していました。でも、そんなことはおかまいなしに、二ひきは身じたくをととのえて、先を争って外に飛び出しました。森はどこまでも真っ白で、お日さまの光をあびてキラキラと光っています。二ひきはワクワクしながら雪をふんで、大きく深呼吸しました。

「何しようか。雪つさぎ作り？」

「雪つさぎみもいいけど、そりで遊ぼうよ」

「いいね、いいね」

トトとムムは相談して、物置から二人乗りのそりを引っばってきました。

「しゅっぱーっ！」

トトのかけ声とともにそりがすべり出しました。みるみる景色が通りすぎていき、広場の入

り口が見えてきました。ところが、

「がっこん」

という音がしたかと思うと、「二ひきは雪の上にほづり出されました。

「トトだいじょうぶだった？」

「うん。ムムは？」

「だいじょうぶ。それよりそりは？」

どうやら切り株にぶつかっただらしく、そりはこわれてしまっていました。

「そうだ。大工のサルさんのところへ持って行って直してもらおうよ」

ムムがいうと、

「サルさんならきつと直してくれるよ」

トトも賛成しました。

「サルさんこんにちは」

二ひきがサルさんをたずねていくと、サルさんは家の周りの雪をかき終えて屋根の上で一服しているところでした。二ひきに気づくと、サルさんは屋根の上から後方二回転宙返りをきめてスタツと着地しました。

「すげーい！」

「かっこいい！」

トトとムムが手をたたいていると、サルさんが言いました。

「よう、ミミとモモ。ひさしぶりっ。あれ、キキとナナだったっけ」

「トトとムムです」

「二ひきがふくれていると、サルさんはすまなそうに言いました。」

「おっとすまねえ。お前たちの名前は覚えにくくて……」

サルさんがもじもじしているの、二ひきはおかしくなって笑い出しました。

「それで、トト……と……ムム、今日は何の用だい？」

サルさんがたずねたので、トトとムムはわかるがわるそりのことを説明しました。サルさんは、話を聞き終わるとニコツと笑って、

「お前たちは無事でよかったな」

と言って、そりを調べ始めました。

「うーん、こりゃあ直せないこともないが、作り直した方が早そうだな」

それを聞いたトトとムムのミミがピンと立ち上がりました。

「えーっ、新しいのを作ってくれるの？」

「おう。どうせならそこらへんの子ども集めて来い。おれがそりの作り方を教えてやる」

「やったー!!」

二ひきは手をつないでバンザイをしました。「フッフッフ。ひさしぶりにうでがなるぜ」

サルさんは力こぶを作ってみせました。

トトとムムは、できるだけたくさん動物を集めようと、大きな声で叫びながら森じゅうを走りまわりました。

さびしい思いをしていた動物たちは、子どもだけでなく、大人もたくさん集まってきました。真っ先に来たのはなんとライオンさんで、

「さびしかったぞ。みんな元気か？」

と言いながらトトとムムのあたまをぐりぐりとなでました。ほかにも、ニワトリさん親子やパンダさんなど、家にいた動物たちがはりきってサルさんの作業場にやってきました。

「よし、じゃあ始めるぞあ」

サルさんが声をかけると、

ワイワイ ガヤガヤ ギコギコ トントン

ひさしぶりに、にぎやかな音が響きました。トトとムムは、一人乗りのそりを二つ、おそ

ろいで作ることにして、木を切り始めました。サルさんは、

「のこぎりってのは、こう持つんだ」

「釘はよく見て真っ直ぐ打て！」

と、子どもたちの前で得意気に話しています。そりは思ったより難しく、釘うちが終わると、みんなヘトヘトになりました。

その時です。玄関の方で「バサツバサツ」と音がしたかと思うと、ガラガラと戸が開いてふくろうさんが入ってきました。

「年よりにそり作りはきついが、お茶のさし入れぐらいししようと思っただけ。みんなでお茶にしましようや」

そう言っただけでふくろうさんが、持ってきたカゴを持ち上げてみせたので、作業場の中は一気に沸き返りました。カゴの中には干しりんごや野沢菜の漬け物、大根の煮物などが入っていました。みんなは温かいお茶を入れて、ふくろうさん特製の冬のごちそうをありがたくいただきました。くいしんぼうのパンダさんは、

「ぜひ、ぼくに漬け物を教えてください」

と、ふくろつさんに頭を下げました。ふくろつさんは「いいりほほえんで、

「いつでもおいで。待ってるよ」

と答えました。

楽しいお茶が終わると、そり作りは最後の仕上げに入りました。トトもムムも、そりにペンをぬって、「TOTTO」「MUMU」と名前を書きました。ライオンさんのそりは色も形もシンプルですが、やすりでピカピカにみがき上げられていて、木目がきれいです。ニワトリさんと三つ子のひよこは、三つの小さなそりの前後に金具をつけ、電車のようにつながるそりを作りました。中でも一番目をひいたのは、パンダさんのそりです。外側はうすい黄緑色、内側の座るところは茶色という、ユニークなデザインです。名前は「よもぎもち号」。実はパンダさんは、よもぎもちが大すきなのです。

みんなはそりが完成すると、丘の上までのぼり、一列に並びました。

「よい、どん」

と言うふくろつさんの声で、たくさんのそりがいつせいにすべり出しました。トトとムムのそりも、「シュー」と雪けむりを上げながら丘を下りました。広場について、みんながサルさんにお礼を言うと、サルさんは、

「これくらい朝飯前さ。また来いよ」

と言いました。動物たちは、自分のそりを引いてニコニコしながら帰っていきました。

家に着いたトトとムムが中に入ろうとすると、玄関の前に小包が置いてありました。差し出し人はくまさんです。

「何だろっ!」

二ひきが家の中に入って小包を開けると、一番上に「トトとムムへ」という手紙が入っていました。

元気ですか。この小包は初雪が降るころに郵便やさんに届けてもらうようにお願いしました。今頃、一面の雪に大はしゃぎしていることでしょう。トトもムムも夏の間にとても大きくなったので、新しいセーターをおくりませうね。きつとびつたりだと思いません。

春になったら、冬のお話をたくさん聞かせてください。一年に一度きりの冬をたくさん楽しんでね。　クマ

二ひきは手紙を読むと、ちょっぴり涙が出そうになりました。セーターは、ふんわりしたさくら色をしていて、ちょうど二ひきにぴつたりでした。

「春の色だね」

トトがそつと言いました。二ひきの真っ白な毛に、やわらかなさくら色がよく合っています。

二ひきは、だんろに火をおこすと、熱いミルクティーを入れました。そして、

「春になったら、くまさんにお礼を言おうね」

「うん。話すこといっぱいしてくるからね」

と、話しながら、いつものようにお茶を飲みました。

(おわり)